こんにちは。日本共産党の　世界の宝　日本国憲法　2021. 9. 16.　No. 549

大名美恵子です

東海村村松 2401-2　電話･fax　284-0761
携帯電話　090-3961-8578
E-mail　toukai@oona-mieko.info

子どものコロナ感染「治ったんだから…」は禁物。無視できない後遺症。

「子どもは重症化しない」わけじゃない！

本村でも子どもの感染が増えてきています。成長期の子どもへの影響は？とても心配です。

東京都内のヒラハタクリニックの平畑光一院長（43）は、「無症状でも無理はさせないで」と警鐘を鳴らしています。ヒラハタクリニックは昨年３月、国内で感染が広がり始めたころにいち早く「コロナ後遺症外来」を設置した方です。

平畑院長は、「治ったのに体がだるい」、「痛みがある」、「熱が続く」と訴える患者さんを 2300 人以上診察してきました。なぜ後遺症が出るのか。自分の免疫で自分を攻撃してしまう「自己免疫」が有力視されていますが、詳しいことは研究途上でわかりません。

患者さんの病状を聞いて、対症療法で症状を改善させているとのことです。

――20 歳未満の子どもで後遺症を訴えるケースはあるのですか。

院長：これまで 100 人以上の子どもを診察してきました。感染した時は軽症や無症状でも、その後重い後遺症に悩む子どももいます。20 歳未満の子どもだと、強いだるさや気分の落ち込み、体の痛みを訴えるケースが多いです。時々あるのは、「動きたくない」「疲れたから寝ていたい」と子どもが訴えるのを、感染症でずっと寝ていたから体力が落ちているだけだと勘違いするケース。「治ったんだから運動しないと元気にならない」と無理に動き回らせるのは禁物です。

運動して体力が戻るなら良いのですが、コロナの後遺症の場合、無理して動いて更に寝込んでしまうケースも少なくありません。例えお子さんが無症状だったとしても、その後、体のだるさを訴え続ける場合は後遺症の可能性があります。他に息苦しさや不眠、発熱を訴える子どももいます。

――変異株の流行で、後遺症に違いはありますか。

院長：クリニックでは変異株かどうかは確認していませんが、患者さんが訴える症状は１年前と今とで大きな変化はありません。大人も含めると動悸や食欲不振、脱毛、味覚や嗅覚の障害を訴える人が多いです。

子どもの後遺症を診察していて心が痛むのは、「子どもはコロナに感染しても重症化しないから心配しすぎないで良い」という意見を耳にすることです。あくまで私が診察したケースで、必ずしも後遺症かどうかは定かではありませんが、クリニックで統計を取り始めた昨年 11 月～今年８月中旬、診察した 10 代 95 人のうち 44 人は寝たきりに近い状態になりました。症状が続く期間は人それぞれですが、１年以上続く人もいます。

特に子どもの後遺症について手薄だなと感じるのは、後遺症で学校に行けていない子たちへの対処です。病欠扱いなのか。出席停止なのか。国もガイドラインを示していますが、現場でどこまで共有されているのか疑問です。校長の判断次第で卒業が難しくなる子もいます。体がだるくて登校できなくても、オンラインで授業参加できるようにするなどの救済策も必要になってくると思います。

重症化しやすい高齢者への対策が優先されてきましたが、コロナ禍が長引くいま、子どもの感染防止や後遺症への対応について、議論が必要です。

詳しくはここを検索 https://withnews.jp/article/f0210909001qq000000000000000W0b810101qq000023515A

日本共産党の新型コロナ感染症対策に関する要望は・・・

新型コロナウイルス　国の責任で抜本対策を

1．コロナ封じ込めを戦略目標にすえ、ワクチンの安全・迅速な接種、大規模検査、十分な補償と生活支援の３本柱での対策を強化する
2．命を救うために医療機関への減収補填、医療体制への支援強化を